

ス ペ イ ン 語
講 座 Lección 19

今回のテーマ

極性の副詞の用法について

Sobre el uso de adverbios de polaridad

ここ最近の本欄(16号～18号)では様々な種類の副詞について扱ってきました。今回は副詞シリーズの最後として、「極性の副詞」を取り上げます。ただ、今回も必ずしも厳密に副詞だけを扱っていないことをあらかじめお断りしておきます。

テーマに挙げた「極性の副詞」という用語は、実はあまり一般的ではないのですが、学習者のみなさんがイメージしやすいかも(?)と採用しました。頭の中で以下のような一本の矢印を思い浮かべて、その両極を「+」と「-」を想定してみてください。



上の図では代表的な también / tampoco のペアを例として挙げてみました。それぞれ肯定と否定を表す副詞です。

肯定の副詞 también は、様々な文の構成要素(主語、目的語、場所や時の副詞句など)に係ることができます。問題はその位置ですが、いろんな場所に置くことができます。例として次のような文を使います。

Yo tomo el café por la mañana en mi casa.
僕は朝、家でコーヒーを飲む。

以下に también をいろんな場所に挿入してみました。太字下線部分が修飾されている要素です。

- Yo **también** tomo el café por la noche. 僕も夜、家でコーヒーを飲む。
- Yo tomo **también el café** por la noche. 僕は夜、家でコーヒーも飲む。
- Yo tomo el café **también por la noche**. 僕は夜も家でコーヒーを飲む。

このようにどの位置に置かによってどこに係っているかが変わってきます。ただし、上の説明はかなり単純化したものです。実際には文脈によって別の要素に係っていると解釈されることがよくあります。例えば、Yo **también** tomo el café por la noche では también は yo ではなく、後の“tomo el café”に係り、「僕は夜(テレビを見たり、勉強したりするけれども、また)コーヒーも飲む」と解釈することもできます。実際の会話中では文脈が大きな意味を持つことにはくれぐれも留意してください。

también を用いた便利な表現に“no solo ~ sino también …”「単に～だけでなく…も」があります。

Los sucedáneos de pescado como “kanikama” están muy difundidos, **no solo** en Japón **sino también** en el extranjero.
「カニカマ」のような魚の代用品は、日本だけでなく外国でもよく普及している。

también の否定形、つまり「～もない」が tampoco です。ただし、他の否定語(nada, nadie, nunca, etc.)と同じく、動詞の前では別途、否定の“no”を必要としません。

Mañana **tampoco** abrimos la tienda porque es festivo.
明日も店を開けない、祝日だから。

さて、2つの要素を取り上げてどちらも肯定する、つまり「AもBも」に相当する構文は“tanto A como B”です。

Me interesa **tanto** la antigua civilización maya **como** la cultura islámica, por eso estoy dudando entre estudiar en México y en España.

私はメキシコのマヤ文明にもイスラム文化にも興味があるので、メキシコで勉強するかスペインで勉強するかで迷っている。

逆にどちらも否定する「AもBも～ない」には“ni A ni B”を使います。

No tengo **ni** dinero **ni** tiempo. ¡Pobre de mí!
私にはお金も時間もありません。かわいそうな私!

también と同様に「付加」を表す表現に“además”「～に加えて」や“incluso”「～さえ」などがあります。例を挙げておきます。

Ayer no salí de casa porque estaba cansadísima y **además** llovía a cántaros.

昨日は家から出なかった。とても疲れていたし、それに加えて土砂降りだったから。

Esta tableta es muy fácil de manejar. **Incluso** un niño de cinco años podrá utilizarla.

このタブレットはとても使いやすい。5歳の子供でさえ使えるだろう。

「付加」の反対の意味である「除外」を表す表現も確認しておきましょう。excepto や menos や salvo が「～を除いて」に相当する語です。文法的にこれらを前置詞と習ったと思いますが、注意が必要です。人称代名詞が前置詞の後に来る場合は、いわゆる「前置詞格」(mí, ti, sí, …) になるはずですが、しかし、そうはならないのです。例文で説明します。

Todos los alumnos, **excepto yo**, aprobaron el examen de esta asignatura.
僕を除いて全ての生徒がこの科目の試験に合格した。

A todos de nuestra familia, **excepto a mí**, les gusta mucho estudiar lenguas extranjeras. うちの家族は、私を除いてみんな外国語を勉強するのが好きだ。

このように excepto の場合は excepto mí ではなく、excepto yo や excepto a mí になることに注意が必要です。つまり、文法的には完全な前置詞とは言えないのです。一方、発音的には前置詞と同じで強勢を置かないで読みます。ですから、副詞と前置詞の間であると言ってもいいかも知れません(言語学者の間でも意見が分かれています)。今回のテーマから少しそれますが、同じ現象は según や entre でも起こります(según tú, entre tú y yo)。

最後に、casi「ほとんど」/ apenas「ほとんど～ない」の用法を確認しましょう。

Mi marido **casi** ha terminado las tareas domésticas de hoy.
うちの夫は今日の家事をほとんど終わった。

Mi marido **apenas** ha empezado las tareas domésticas de hoy.
うちの夫は今日の家事をほとんど始めていない。

副詞と言うものは実に多様な言葉の集まりであることがよくわかったことと思います。また、文法的にははっきりと割り切れないケース(副詞か前置詞かなど)も意外に多いのです。ややこしいですね。でもだからこそ言語というものは魅力的である、とは思いませんか?

¡Hasta la vista!



仲井邦佳 なかいくによし/Kuniyoshi Nakai
立命館大学産業社会学部教授。京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同窓社) などがある